

医療倫理学って何だ？

医療倫理学分野 教授 浅井 篤

皆さん、こんにちは。ここでは医療倫理学分野では主にどんなことを考え、世の中をどのように捉え、何を目指しているかを簡単に述べましょう。そして私の見解に共感を覚えるなり興味を持たれたら当分野を訪ねてきてください。

医療倫理学は、様々な角度から我々の生命について考えます。患者さんが自分の意向に従って診療方針を決める自己決定、種々の理由で自分の受ける診療の方針を決められない患者さんにかわって家族や関係者が代理で方針決定する代理判断、患者さんが自分の意思で生命維持処置を中止したり意図的に死期を早めたりする尊厳死・安楽死など、「生命について決める」ことについて考えます。患者さんや健康なボランティアの同意のもとに、彼等に対して様々な実験的介入や検査を行いデータを取る医学系研究、亡くなった患者さんの臓器を重症臓器不全患者さんに移し替える臓器移植、受精卵から万能細胞を作り出し組織や臓器を形成させる再生医療などでは、「生命を利用する」ことについて考える必要があるでしょう。

出生前に胎児の疾患の有無や遺伝子や染色体の異常を検査する出生前検査や、複数の患者さんたちの間で誰かを優先して治療を提供する稀少医療資源の配分では、「生命を選別する」ことについて考えなければなりません。神経難病や乳癌や大腸がんの発がん性に関する遺伝子診断や根治治療が困難な悪性疾患に関する病名説明は、「生命（の終わり方や時期）を知る」ことについて考えるになるでしょう。そして救命治療や健康増進を含む公衆衛生、病気を起こすゲノムを削除したり好ましい遺伝子を挿入するゲノム編集等では、適切に「生命を改善する」ことについて考えなければなりません。

私たちが上記のようないわゆる倫理問題に遭遇することになる、今の医療または近い将来の医療はどんな状況にあるのでしょうか。私は直感的に現在を含んだ今後の日本社会の医療は次のような時代にあると思います。思い付くまま挙げてみると、「超高齢時代」、「高度医療技術時代」、「健康増進時代」、「医療費高騰時代」、「多民族・多文化時代」、「医療商業化時代」、「研究第一時代」、「人工知能（AI）導入時代」、「パーフェクト追求時代」、「医療現場超多忙時代」、「医療資源濫用時代（薬、救急車、救急医療等）」、「業績至上・研究不正時代」、「医療万能・不死幻想蔓延時代」というラインナップになるでしょう。

日本の生命医療倫理学界の議論をみていると「欧米製医療倫理学習完了時代」と付け加えてもいいかもしれません。そして、これからの医療を取り巻く状況はますます複雑になりより大きな矛盾に満ちていくでしょう。最後に「医療技術・医療文化ギャップ拡大時代」を加えておきましょうか。というのは、私は今の医療現場の様々な判断の基礎にある我々の文化が変わらず今までのままでは、今後も倫理的ジレンマに適切に対応できないのではないかと危惧しているからです。

以上の状況を鑑み、医療倫理学は医療・医学に関わる倫理に関する知識を得る、課題に気付くための感受性を高めること、適切な議論の仕方を身に付けることをその教育目標にしてきました。自分が感じたことを冷静にじっくり考える、他の人々と共感的に謙虚に話し合える、「うちの病院・研究室ではずっと、こういう時はこうやって来たので、それでいいのだ」というような現場相対主義に陥らないようにすることも大切な達成目標です。そして、これらの結果として、医療専門職が診療現場において患者さんの最善の利益になる適切な判断を下せるようになり、医学研究者が社会のためになる成果を創出できるようにすることを目指しています。

最後に私が考えるところの「医学的事実と価値ある選択の関係」（下記）を図示して終わります。

医学的事実



患者個人にとって価値あること
(最善の利益)



倫理的に考える(医学的効果が患者の最善の利益になるか否か)

諸倫理原則、重要概念、指針、意見交換、意思決定支援、適切な倫理問題へのアプローチ、
関係者の使命感と有徳性発揮、普遍的で中庸を得た選択